第 28 回雲南懇話会

講　演　要　旨

１.「６～70 歳代のチベット、ネパールの山々」－シシャパンマ中央峰(8008m),2004、Mera Peak(6654m),2013－

日本山岳会**評議員・図書委員**、関西学院大学山岳会　　南井 英弘

2002 年に新疆の秀峰ムスターグ・アタ（7546m）を無酸素で登り、8 千 m 峰も夢ではないと意欲が湧いた。2003 年のバルトロ氷河からゴンドコロ峠越えの厳しい経験から、2004 年に初めて公募登山隊に参加し巨峰に登頂し得た。この頃から注目していたネパールのメラ・ピーク。2013 年 10 月に単独登頂を果たしたものの入山以来 12 日間連続して雨 or 雪という悪天候。アタック開始から帰着まで、連続 22 時間の行動を余儀なくされた。この間の反省・教訓・所感の一端を紹介します。

２．「内モンゴル大草原の自然と伝統文化」－生態移民の事例研究－

千葉大学　　那木拉（ナムラ）

内モンゴル大草原は遊牧地域である。遊牧民たちは遊牧文化を作り、草原で生活してきた。しかし、2000 年頃に砂嵐の被害が起きてから、放牧が砂嵐の原因と中国政府に指摘され、牧畜を草原から排除する「生態移民」政策が実施された。牧畜民たちが政府に誘導され、草原と伝統的家畜から離されて、生態移民になって移住された。結果、「生態移民」政策は生態環境を回復できなかったし、逆に移住した牧畜民たちを経済的困窮に落とし、伝統的文化を喪失しつつある。

３．「大地に根差すチベット医学」　－ヒマラヤの薬草をめぐって－

薬剤師、チベット医、森のくすり塾主宰　　小 川　康

チベット民族の健康を担う医師としての役割はもちろんのこと、険しいヒマラヤ山中から薬草を採取して製薬する薬剤師の役割、祈りを捧げて御加持を込める僧侶の役割、歴史や文学、歌などに精通した学者としての役割、これら全てを担う存在がチベット医なのです。本講座ではヒマラヤの薬草を中心に、多様なチベット文化の世界にみなさまを御案内いたします。

４．「チベット仏教の世界」　－仏教伝来からダライ・ラマへ－

筑波大学人文社会系教授、哲学・思想専攻　　吉水千鶴子

チベット民族には政治から人々の日常生活に至るまで、隅々まで仏教が浸透しています。現在でも人口の 90%は仏教徒であると言われています。今回、チベットへの仏教伝来から 17 世紀のダライ・ラマ政権の誕生に至るまでのチベットの歴史をお話ししながら、チベット仏教の世界を紹介したいと思います。現在のチベット仏教の骨格である宗派とその教義は大よそこの時代までにでき上がりました。そして、転生活仏を民族のリーダーと考える仕組みも作られたのです。チベット仏教とは、政治体制を支える理念であり、他国との外交手段であり、人心掌握の手段であり、哲学であり、信仰の対象であり、人々の心の支えです。この豊かな世界を、端緒に遡ってお話しします。

５.「南極氷床を探る」　－氷床内陸探査史と氷床深層コア研究の成果－

国立極地研究所（元）所長、名誉教授　　渡辺 興亜

南極大陸上には面積約 1200 万平方 Km、平均の厚さ 1856m の雪氷層が分布し、巨大な氷床を形成している。南極大陸内陸部は国際地球観測年（1957-58）以前には地図の空白部であった。我国の南極観測は第 1 次隊から果敢に内陸探査を行い、昭和基地南方「みずほ高原」の自然を明らかにしていった。講演者らの構想に基づく研究計画は 1970 年代の「エンダービーランド雪氷総合計画」を嚆矢とし、1980 年代、1990 年代と二つの計画に引き継がれ、現在では「みずほ高原」の地理、気候、雪氷学的状態らが明らかにし、みずほ高原最源流の「ドームふじ」での深層氷床掘削（3000 深）に成功し、過去 70 万年の地球気候・環境変動の再現に成功している。この研究の道筋を紹介する。